

第2節

大学での学習成果

1 大学での学習成果

国際的な大学教育改革の柱である学習成果の獲得状況(自己評価)についてたずねたところ、基礎知識や文書作成の獲得率は高く、思考力や自己管理能力は中程度、科学的手法や語学力、リーダーシップは低いことが確認された。身につける場として専門教育の果たす役割が大きいたことが示された。

基礎知識や文書作成の獲得率は高く、思考力や自己管理能力は中程度、科学的手法や語学力、リーダーシップは低い

近年の大学教育改革・改善において「学習成果(ラーニング・アウトカム)」は中核概念として据えられている。教員が何を教えるかといった教育内容に軸を置いた教育課程編成の在り方から、学生が何を身につけることができるかといった学習成果に軸を置いた教育課程編成への転換である。文部科学省より提起された「学士力」、日本学術会議による分野別質保証の「参照基準」、OECDによる国際的な学習成果アセスメントである「AHELO」、認証評価の第2サイクルにおける評価の観点としての学習成果の導入など、あげればきりが無い。そのような学習成果を捉えるための試みは国を超えて様々展開されているが、ここでは学生による自己評価(間接評価)という形で捉えてみたい。あくまで自己評価ではあるが、2008年調査時に、国内外の様々な類似調査を参考にしながら、より多面的で効果的と思われる28の項目を吟味・選出している。

図3-2-1は、大学での学習成果に関する28項目について、「かなり身についた」と「ある程度身についた」の割合を合わせた数値の高い順に並び替えたものである。以下、

一定の得点範囲(高群70%以上、中群50%~69%、低群49%以下)に分けて特徴をみてみたい。高群に該当した項目は、「社会の規範やルールにしたがって行動する」(73.8%)、「PCを使って文書・発表資料を作成し表現する」(72.8%)、「専門分野の基礎的な知識・技術を身につける」(71.5%)の3つであった。中-高群(計60%~69%)に該当する項目は、「人と協力しながらものごとを進める」(69.9%)から「筋道を立てて論理的に問題を解決する」(63.2%)までの14項目と最も多くの項目が分布している。ここには、論理的思考や表現力、協調性や適性理解などが含まれている。中-低群(計50%~59%)に該当する項目は、「自分で目標を設定し、計画的に行動する」(59.3%)と「自分に自信や肯定感をもつ」(54.1%)の2項目であった。低-高群(計40%~49%)に該当する項目は、「既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す」(49.4%)から「国際的な視野を身につける」(42.8%)までの5項目であった。ここには、実験や調査の適切な計画・実施、図や数字を用いた表現力、数式や図・グラフを用いた問題解決力といった科学的な研究を遂行するための力が含まれている。低-低群(計39%以下)に該当する項目は、「外国語で読み、書く」(38.2%)から「社会活動に積極的に参

加する」(26.7%)までの4項目であった。ここには、語学力とリーダーシップなどが含まれている。また、学年別で見ると、概ね学年進行に沿って数値は上昇しているが、語学力に関してのみ学年進行とともに数値は下降

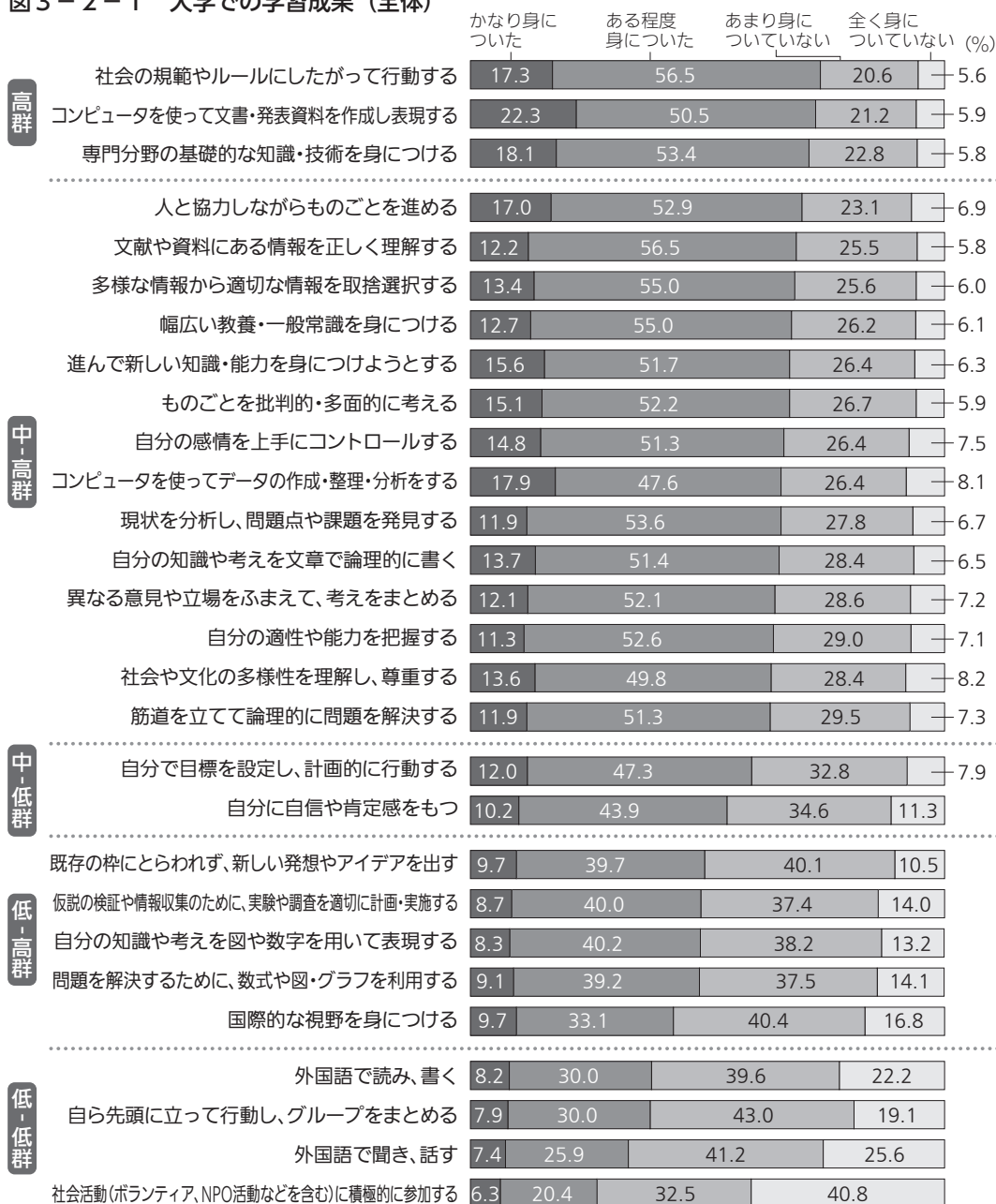
している。なお、これらの傾向(順位)や数値(割合)は、2008年調査の結果とほとんど変わっていない(巻末の基礎集計表を参照)。

また、表3-2-1は、学部系統別に比較したものである。特徴として、(1)「人文科学」



あなたは次のようなことについて、大学生活全体を通じてどの程度身についたと思いますか。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

図3-2-1 大学での学習成果(全体)



は語学力、国際性が強く、数的処理が弱いこと、(2)「理工」は数的処理やPCを用いた処理が強く、協調性や国際性、多文化理解が弱いこと、(3)「教育」は協調性や社会参画、論理性や自己の適性把握に強いことなどが挙げられる。

.....
専門教育は学習成果獲得の要

本調査では、学習成果 28 の項目が具体的にどのような場面で身についたのかを把握するために、各項目で「かなり身についた」と回答したものについては、さらに 11 の場面の中から最もあてはまると思われるもの 1 つを挙げてもらっている。11 の場面には、

共通教育や専門教育（講義、ゼミ、卒論・卒研）、部活動やアルバイト、留学や就職活動、人間関係など、正課内外での幅広い活動が含まれている。表3-2-2を見ると、圧倒的多数の項目が「専門教育（講義科目）」と「専門教育（実験・実習・演習科目）」で身につけられているということがわかる。ただし、この結果の解釈には留意が必要である。それは、専門教育についてはほとんど全ての学生が経験する活動であるが、留学やボランティア、部活動やアルバイト、就職活動、専門教育（卒論・卒研）などの活動はそもそも経験している学生が少ないという問題である。経験していなければ当然答えられないので、偏っている可能性があるということである。

表3-2-1 大学での学習成果（学部系統別）

	全体 (4,911)	人文科学 (749)	社会科学 (1,693)	理工 (937)	農水産 (216)	医・薬・保健 (556)	教育 (261)
人と協力しながらものごとを進める	69.9	69.6	67.2	65.9	73.1	76.2	80.4
自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる	37.9	36.3	39.3	35.5	34.8	37.1	45.2
異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる	64.2	67.2	64.6	58.3	59.7	65.8	71.3
自分の知識や考えを文章で論理的に書く	65.1	69.4	64.3	61.0	60.6	66.4	72.0
自分の知識や考えを図や数字を用いて表現する	48.5	38.4	43.1	61.8	55.1	56.3	46.4
コンピュータを使って文書・発表資料を作成し表現する	72.8	73.4	68.8	78.1	72.7	72.4	75.1
進んで新しい知識・能力を身につけようとする	67.3	70.9	64.0	65.8	68.1	69.9	70.9
自分で目標を設定し、計画的に行動する	59.3	61.6	56.7	57.5	62.0	64.2	62.0
自分の感情を上手にコントロールする	66.1	64.7	64.7	65.7	66.7	69.0	70.1
自分の適性や能力を把握する	63.9	62.4	62.7	62.7	64.8	67.1	70.8
自分に自信や肯定感をもつ	54.1	52.3	54.6	52.3	51.9	51.9	61.7
外国語で読み、書く	38.2	51.8	37.0	34.6	40.2	34.5	34.9
外国語で聞き、話す	33.3	47.3	33.4	28.2	27.8	29.0	30.7
文献や資料にある情報を正しく理解する	68.7	72.3	65.8	67.7	70.4	71.6	70.8
コンピュータを使ってデータの作成・整理・分析をする	65.5	59.9	60.8	78.4	64.4	64.1	64.4
多様な情報から適切な情報を取捨選択する	68.4	68.9	66.3	69.8	70.8	69.9	67.0
ものごとを批判的・多面的に考える	67.3	70.1	67.5	64.7	68.1	66.9	69.7
現状を分析し、問題点や課題を発見する	65.5	63.6	65.4	65.3	62.5	69.3	62.1
問題を解決するために、数式や図・グラフを利用する	48.3	36.1	40.4	68.1	57.9	57.5	44.4
仮説の検証や情報収集のために、実験や調査を適切に計画・実施する	48.7	45.7	43.3	56.3	52.4	55.2	48.2
筋道を立てて論理的に問題を解決する	63.2	60.1	62.4	66.5	62.9	65.3	62.9
既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す	49.4	51.0	48.3	46.8	46.7	43.0	52.4
幅広い教養・一般常識を身につける	67.7	69.3	68.4	63.8	73.1	66.4	72.4
専門分野の基礎的な知識・技術を身につける	71.5	69.6	63.9	75.1	72.2	81.1	76.6
社会や文化の多様性を理解し、尊重する	63.4	72.7	65.7	53.2	62.9	57.5	67.0
国際的な視野を身につける	42.8	56.5	45.2	35.6	45.4	34.1	39.0
社会の規範やルールにしたがって行動する	73.8	76.1	71.7	70.9	72.2	78.2	76.2
社会活動（ボランティア、NPO活動などを含む）に積極的に参加する	26.7	27.7	27.2	19.5	26.8	26.9	44.9

注1) 「かなり身についた」+「ある程度身についた」の%。 注2) 学部系統「その他」は省略している。
 注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。
 注4) □は全体よりも5ポイント以上、▬は10ポイント以上低いものを示す。 注5) ()内はサンプル数。



前問で「かなり身についた」と回答した次の項目について、それはどのような場や活動で身についたと思いますか。それぞれについてもっともあてはまるもの1つをお選びください。

表3-2-2 学習成果が身についた場面（全体）

	(%)											
	共通教育・スポーツ・初年次教育	専門教育(講義科目)	専門教育(実験・実習・演習(ゼミ)科目)	専門教育(卒業論文・卒業研究)	復習・資格取得(含む)	授業以外の自主学習(予習・)	留学・国際交流活動	ボランティア・社会貢献活動	部活動・サークル	アルバイト	人間関係(友人・恋人・家族含む)	就職活動
人と協力しながらものごとを進める (837)	8.0	12.3	31.9	3.1	2.2	1.0	3.3	19.6	8.4	9.4	0.8	
自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる (387)	9.8	15.0	27.6	3.4	3.4	2.1	2.6	21.7	6.5	5.4	2.6	
異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる (594)	10.3	19.7	31.5	4.2	3.4	1.3	1.3	14.5	3.9	6.4	3.5	
自分の知識や考えを文章で論理的に書く (675)	13.2	35.4	30.1	8.4	4.0	0.9	0.7	3.1	1.5	0.7	1.9	
自分の知識や考えを図や数字を用いて表現する (409)	13.0	28.1	36.7	8.6	4.4	1.2	1.2	3.2	1.0	1.7	1.0	
コンピュータを使って文書・発表資料を作成し表現する (1,097)	19.0	30.0	35.5	6.7	3.2	0.4	0.6	2.5	1.5	0.5	0.4	
進んで新しい知識・能力を身につけようとする (768)	11.8	33.1	19.4	4.6	15.2	1.8	1.7	5.5	3.9	1.8	1.2	
自分で目標を設定し、計画的に行動する (589)	9.5	25.0	16.8	5.8	17.1	1.5	2.0	9.2	6.3	2.7	4.1	
自分の感情を上手にコントロールする (728)	5.5	8.5	7.1	1.9	3.8	1.4	1.2	17.4	14.8	36.5	1.6	
自分の適性や能力を把握する (556)	10.1	22.7	18.9	4.5	7.0	2.0	1.1	8.6	11.5	4.9	8.8	
自分に自信や肯定感をもつ (502)	9.8	15.1	18.1	3.2	5.6	2.6	2.2	14.1	9.2	14.5	5.6	
外国語で読み、書く (402)	33.8	29.9	8.5	2.7	8.5	12.2	0.5	1.0	1.5	1.2	0.2	
外国語で聞き、話す (361)	28.0	25.2	7.2	2.8	7.2	21.6	1.1	1.4	1.9	2.5	1.1	
文献や資料にある情報を正しく理解する (597)	13.2	36.0	29.5	9.4	4.9	0.5	0.7	2.0	2.0	0.8	1.0	
PCを使ってデータの作成・整理・分析をする (877)	18.8	29.9	31.8	7.4	4.3	0.7	0.9	2.7	1.5	0.7	1.3	
多様な情報から適切な情報を取捨選択する (657)	14.5	29.7	24.5	6.8	8.1	1.4	0.6	4.7	2.6	3.2	4.0	
ものごとを批判的・多面的に考える (744)	14.0	28.2	25.7	5.4	5.5	1.2	0.9	6.7	3.1	7.8	1.5	
現状を分析し、問題点や課題を発見する (582)	9.6	23.4	30.2	8.6	5.8	0.7	2.1	8.1	6.7	2.4	2.4	
問題を解決するために、数式や図・グラフを利用する (448)	10.9	30.8	36.6	8.9	4.9	0.7	1.1	2.2	1.3	0.9	1.6	
仮説の検証や情報収集のために、実験や調査を適切に計画・実施する (425)	9.9	24.7	40.7	11.3	4.0	1.4	1.2	3.8	1.4	0.7	0.9	
筋道を立てて論理的に問題を解決する (583)	10.6	31.0	27.6	8.9	5.7	1.2	1.4	6.3	2.4	2.6	2.2	
既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す (476)	9.9	24.6	23.7	7.8	6.5	2.7	3.4	8.8	4.0	5.5	3.2	
幅広い教養・一般常識を身につける (622)	41.5	26.2	7.4	2.3	6.1	1.6	1.3	3.4	5.9	2.6	1.8	
専門分野の基礎的な知識・技術を身につける (888)	5.5	55.7	25.3	4.2	3.8	1.1	0.5	1.9	0.9	0.6	0.5	
社会や文化の多様性を理解し、尊重する (667)	19.3	25.8	10.9	3.0	2.7	10.5	3.0	5.5	8.1	10.0	1.0	
国際的な視野を身につける (476)	17.6	26.3	8.4	3.8	5.0	23.3	3.2	3.6	2.1	6.3	0.4	
社会の規範やルールにしたがって行動する (849)	11.2	10.1	7.7	2.0	2.4	0.7	3.7	14.3	29.2	14.1	4.7	
社会活動(ボランティア、NPO活動などを含む)に積極的に参加する (308)	9.4	8.1	4.2	3.6	5.8	2.6	44.8	15.9	1.9	2.9	0.6	

注1) 「かなり身についた」 + 「ある程度身についた」の%。

注2) ●は、学習成果の項目別に最も高いもの、○は2番目に高いものを示す。

注3) 対象は、各項目で「かなり身についた」と回答した人。()内はサンプル数。

2 大学生生活・授業での経験と学習成果との関連

大学生生活や授業での経験と学習成果の関連について検討するために、学習成果（28項目4因子）と学生生活で力を入れた活動（10項目）、授業に対する取り組み（26項目5因子）の変数を用いて分析を行った。その結果、正課内外で多様な学習経験を積むこと、計画的・継続的な自主学習を行うことが学習成果の獲得に強い影響をもたらしていることが示された。

学習成果は4つの因子で構成

先の質問では、大学での学習成果の獲得状況についてみてきた。また、学習成果がどのような場面で身についたかについても検討を行ったが、そもそもの経験の有無による差異を弁別できないということも指摘した。ここでは、現代大学生の学習成果の獲得について、学生の活動への傾倒（大学生生活で力を入れてきた活動10項目）や授業に対する取り組み（26項目）との関連からさらに検討を行っていききたい。

その際、学習成果に関する項目が28項目、関連をみる変数がそれぞれ10項目と26項目で、マトリクスを作るには、膨大になりすぎて結果も煩雑になってしまうので、まず、学習成果に関する28項目を因子分析（主因子法、Promax回転）という手法を用いて、統計的に意味のあるまとまり（項目群）を導き出すことにする。この手法は2008年調査でも用いており、最も簡便に理解できる4つの因子（互いに関連のある項目群）が導き出されている。同様の手法を用いて今回の調査データの分析を行ったところ、全く同じまとまりに項目が分かれた（表3-2-3）。1つ目は、批判的思考や自己管理、専門や教養に関する知識といった全般的な態度・技能で構成されており「汎用的能力」（18項目）と命名した。2つ目は、コンピュータや図・グラフ作成といった内容から「数的処理能力」（5項目）と命名した。3つ目は、外国語や国際的視野に関する内容から「外国語運用能力・国際性」

（3項目）と命名した。4つ目は、リーダーシップや社会参加に関する内容から「積極性・リーダーシップ」（2項目）と命名した。以降の分析では、28の学習成果に関する項目を集約したこの4つの因子（項目群）に基づいて行うこととする。

学習成果の獲得には、正課内外での学習への傾倒が最重要

まず、様々ある正課・正課外のどのような活動に力を入れることが学習成果の高低に影響を与えるのかについて検討を行う。具体的には、10項目の力を入れた活動それぞれにおいて、「とても力を入れた」と「まあ力を入れた」と回答したものを高群、「全く力を入れなかった」と「あまり力を入れなかった」と回答したものを低群として、両群における4つの学習成果（因子）の平均得点の差を比較する。各値を示したものが表3-2-4である。両群間の統計的検定（t検定）の結果、サークルや部活動による「外国語運用能力・国際性」以外の全てにおいて1%水準で有意な差（高群>低群）がみられた。そのことを確認した上で、表では絶対値の差を示している。特徴として、(1)「汎用的能力」の獲得において、授業や卒論・卒研、自主的な勉強、読書など広い意味で“学習”に関わる活動への傾倒や、学内行事や就職活動、社会活動など学内外の社会と接点のある活動への傾倒が重要な役割を担っていること、(2)「数的処理能力」の獲得については、授業や卒論・卒

研が高く寄与していることが挙げられる。いずれも、正課内外で「学習」に積極的に関わっていくことが学習成果の獲得に大きな影響を与えていることが確認された。

かについてみていきたい。ここでは、授業に対する取り組み 26 項目を取り上げる。項目数が多いので、学習成果と同様に因子分析(主因子法、Promax 回転)を行うこととする。その結果、項目内容から 5 つの因子(「F1 受講の基本的マナーの遵守(8 項目)」「F2 ディスカッション等への貢献(4 項目)」「F3 計画的・継続的自主学习(6 項目)」「F4 興味に基づいた自主学习(4 項目)」「F5 授業の予習・復習(4 項目)」)が抽出された(表

.....
学習成果の獲得には、計画的・継続的な自主学习が最重要

それでは、実際に学習に関わるどのような取り組みが学習成果の獲得に寄与しているの

表 3-2-3 学習成果に関する因子分析結果(因子名と該当項目)

因子名	項目数 (得点範囲)	項目内容
第1因子 「汎用的能力」	18 (18-72点)	1.人と協力しながらものごとを進める/3.異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる/4.自分の知識や考えを文章で論理的に書く/7.進んで新しい知識・能力を身につけようとする/8.自分で目標を設定し、計画的に行動する/9.自分の感情を上手にコントロールする/10.自分の適性や能力を把握する/11.自分に自信や肯定感をもつ/14.文献や資料にある情報を正しく理解する/16.多様な情報から適切な情報を取捨選択する/17.ものごとを批判的・多面的に考える/18.現状を分析し、問題点や課題を発見する/21.筋道を立てて論理的に問題を解決する/22.既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す/23.幅広い教養・一般常識を身につける/24.専門分野の基礎的な知識・技術を身につける/25.社会や文化の多様性を理解し、尊重する/27.社会の規範やルールにしたがって行動する
第2因子 「数的処理能力」	5 (5-20点)	5.自分の知識や考えを図や数字を用いて表現する/6.コンピュータを使って文書・発表資料を作成し表現する/15.コンピュータを使ってデータの作成・整理・分析をする/19.問題を解決するために、数式や図・グラフを利用する/20.仮説検証や情報収集のために、実験や調査を適切に計画・実施する
第3因子 「外国語運用能力・国際性」	3 (3-12点)	12.外国語で読み、書く/13.外国語で聞き、話す/26.国際的な視野を身につける
第4因子 「積極性・リーダーシップ」	2 (2-8点)	2.自ら先頭に立って行動し、グループをまとめる/28.社会活動(ボランティア、NPO活動などを含む)に積極的に参加する

注) ここでいう得点とは、それぞれの因子に含まれている項目の回答結果を点数に換算(「かなり身についた」=4点、「ある程度身についた」=3点、「あまり身につけていない」=2点、「全く身につけていない」=1点)し、その因子に含まれる全ての項目の換算結果を合算した値をさす。

表 3-2-4 大学生活で力を入れた活動と学習成果の関連

力を入れた活動	汎用的能力			数的処理能力			外国語運用能力・国際性			積極性・リーダーシップ		
	高群	差	低群	高群	差	低群	高群	差	低群	高群	差	低群
大学の授業	50.7	>	44.1	13.5	>	11.7	7.0	6.1	4.3	4.3	3.8	
サークルや部活動	49.9		48.4	13.2		12.8	6.9	6.9	4.4	4.4	4.2	
卒業論文や卒業研究	52.5	>	46.6	14.1	>	12.3	7.0	6.7	4.7	4.7	4.3	
大学の授業以外の自主的な勉強	52.5	>	46.8	13.8		12.5	7.3	6.4	4.5	4.5	4.0	
学校行事やイベント	51.4	>	48.2	13.6		12.8	7.2	6.6	4.7	4.7	4.0	
アルバイト	50.0		47.3	13.2		12.6	7.0	6.5	4.4	4.4	4.0	
社会活動(ボランティア、NPO活動などを含む)	53.3	>	49.0	13.9		13.0	7.6	6.9	5.6	>	4.3	
趣味	49.6		46.9	13.1		12.5	6.8	6.5	4.2	4.2	4.1	
就職活動	52.2	>	47.3	13.7		12.6	7.1	6.7	4.7	4.7	4.2	
読書(マンガ、雑誌を除く)	50.8	>	47.6	13.4		12.6	7.0	6.6	4.4	4.4	4.1	

>3.0pt >1.5pt >1.0pt >1.0pt

注) 表中の数値は、次のような手順で導き出している。まず、「大学生活で力を入れてきたこと」(p.48)の10項目に対し、それぞれ「とても力を入れた」「まあ力を入れた」と回答した学生を高群、「全く力を入れなかった」「あまり力を入れなかった」と回答した学生を低群として設定した。次いで表3-2-3の注に示した得点を回答者個別に算出し、高群、低群それぞれで平均値を求めた。なお各項目の高群、低群のサンプル数は項目により異なる。

3-2-5)。5つの因子の得点と先の学習成果の4つの因子の得点との関連性をみるために、表3-2-6のように相関係数を算出した。特徴として、(1)「汎用的能力」の獲得には、授業に関わる全ての取り組みへの積極的関与が関係していることがわかるが、とりわけ「計画的・継続的自主学习」や「興味に基づいた自主学习」の2つが強く関連していること、(2)「数的処理能力」の獲得には、「計画的・継続的自主学习」が強く関

連していること、(3)「外国語運用能力・国際性」の獲得には、「授業の予習・復習」が最も強く関連していること、(4)「積極性・リーダーシップ」の獲得には、「ディスカッション等への貢献」や「計画的・継続的自主学习」「授業の予習・復習」が強く関連していることなどが挙げられ、自主的な学習が学習成果の獲得において極めて重要であることがわかる。

表3-2-5 授業に対する取り組みに関する因子分析結果（因子名と該当項目）

因子名	項目数 (得点範囲)	項目内容
第1因子 「受講の基本的マナーの遵守」	8 (8-32点)	2.授業に必要な教科書、資料、ノートなどを毎回持参する/3.授業に遅刻しないようにする/4.履修登録した科目は途中で投げ出さない/5.授業中は黒板に書かれていない内容もノートにとる/6.授業中に私語をしない/8.授業で出された宿題や課題はきちんとやる/9.レポートやテストを提出する前に見直す/25.できるかぎり良い成績をとろうとする
第2因子 「ディスカッション等への貢献」	4 (4-16点)	11.グループワークやディスカッションで自分の意見を言う/12.グループワークやディスカッションでは、積極的に貢献する/13.グループワークやディスカッションでは、進んでまとめ役をする/14.グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する
第3因子 「計画的・継続的自主学习」	6 (6-24点)	20.グループワーク以外で、友だちと一緒に勉強する/21.資格や免許の取得をめざして勉強する/22.大学以外の学校などに通って勉強する/23.計画を立てて勉強する/24.自分の意思で継続的に勉強する/26.卒業論文や卒業研究に積極的に取り組む
第4因子 「興味に基づいた自主学习」	4 (4-16点)	16.授業でわからなかったことは、自分で調べる/17.授業で興味をもったことについて自主的に勉強する/18.授業で配布された資料などを整理する/19.授業とは関係なく、興味をもったことについて自主的に勉強する
第5因子 「授業の予習・復習」	4 (4-16点)	1.授業の予習をする/7.授業でわからなかったことは先生に質問する/10.クラス全員の前で、積極的に質問や発言をする/15.授業の復習をする

注) ここでいう得点とは、それぞれの因子に含まれている項目の回答結果を点数に換算（「とてもあてはまる」=4点、「まああてはまる」=3点、「あまりあてはまらない」=2点、「あてはまらない」=1点）し、その因子に含まれる全ての項目の換算結果を合算した値をさす。

表3-2-6 授業に対する取り組みと学習成果の関連（相関分析）

	学習成果				授業に対する取り組み				
	汎用的能力	数的処理能力	外国語運用能力・国際性	積極性・リーダーシップ	受講の基本的マナーの遵守	ディスカッション等への貢献	計画的・継続的自主学习	興味に基づいた自主学习	授業の予習・復習
学習成果	1								
汎用的能力		.704**							
数的処理能力			1						
外国語運用能力・国際性		.491**	.373**	1					
積極性・リーダーシップ		.532**	.437**	.453**	1				
授業に対する取り組み									
受講の基本的マナーの遵守		.399**	.290**	.140**	.078**	1			
ディスカッション等への貢献		.497**	.368**	.305**	.474**	.299**	1		
計画的・継続的自主学习		.517**	.419**	.356**	.446**	.382**	.474**	1	
興味に基づいた自主学习		.511**	.388**	.273**	.239**	.554**	.422**	.567**	1
授業の予習・復習		.449**	.362**	.387**	.414**	.397**	.535**	.599**	.569**

** 相関係数は1%水準で有意。

注) 本項目群の因子分析は2008年調査時にも行われており、5因子が確認されている（杉谷、2009）。今回の調査においてもほぼ同様の因子構造が得られているため、因子名も一定踏襲するが、項目を変更していることもあるので、若干異なっている。